

第 20 回 猪名川自然環境委員会 議事概要

- 日 時:平成 24 年 2 月 23 日 (木) 14:00~16:00
- 場 所:大阪マーチャングイズマート 2F 会議室
- 出席者:森下委員長、池淵委員、斉藤委員、田中委員、村上委員、竹門委員 (オブザーバー)
(猪名川河川事務所) 谷川所長、綾木副所長、野田課長、松井課長、荘司課長、
中澤係長
(財)河川環境管理財団) 青木、出口、本山
傍聴:7名

■ 議事次第:

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事
 - 1) 第 19 回猪名川自然環境委員会 議事概要の確認について
 - 2) 平成 24 年度 工事予定箇所への河川環境への影響評価と対策について
 - 3) 平成 24 年度 工事箇所モニタリング調査計画について
 - 4) 平成 23 年度 工事事前調査結果報告について
 - 5) 平成 22 年度 工事事後調査結果報告について
 - 6) その他 第 10 回猪名川総合土砂管理委員会報告

■ 結果および主な意見:

【第 19 回猪名川自然環境委員会 議事概要の確認について】

○平成 23 年度工事予定箇所への河川環境への影響評価と対策について

- ・ 名神藻川橋・尼崎市上水道藻川水管橋構造物保護、利倉橋、猪名川サイフォン、猪名川第2サイフォン、猪名川第3サイフォン構造物保護、名神猪名川橋、阪急神戸線猪名川橋梁、北部浄化センター伏越 構造物保護、について、「サイフォン等の保護」は、生物の保護と混同するため「サイフォン等の構造物の洗掘防止」と表現した方が良い。

○魚道の遡上について

- ・ 「猪名川にアユが遡上してきている結果が大事なことである」を「猪名川にアユが遡上していることが重要で、今後はその遡上数を増大することが重要となる」とする。

○河原再生試験施工地モニタリング調査について

- ・ 「都市河川の中に自然景観を残すことが難しい」を「都市河川の中に自然景観を残すことが望ましい」とする。

【平成 24 年度 工事予定箇所への河川環境への影響評価と対策について】

○ 全体計画について

- ・ 掘削事業と再生計画は両立すると考え、掘削土砂を利用する等も考えて進めていくことが大切である。

○ 利倉地区他河道掘削工事について

- ・ 第 11 回構造検討部会の内容で、「冠水した方が植物にとって良い」を「平常水位の所まで掘削することで冠水頻度も上がり植物にとって良い」とする。

○ 猪名川大橋地区礫河原再生工事について

- ・ 景観把握の観点から、この地区はJR宝塚線から見える場所であり、どの地点から見え始め、どの程度見える時間があるかを把握することが大切である。車窓からの風景について、どのように見せるかを考えていくことが大切である。
- ・ この地区内には、礫河原やワンドがあり、掘削しても残す再生事業は可能ではないか。下流だけ残し、上流部を掘削し礫河原として再生すること等も考えられる。

○ 伐木について

- ・ 伐木は河道管理、植生管理の観点から行われてきたが、伐木した効果を治水面、環境面で評価することが大切である。
- ・ 伐木台帳を整理すると経年的な変化を把握することが出来、何年後に伐木が必要かを検討することが出来る。

○ 平成 24 年度 環境調査計画について

- ・ 今後の工事施工箇所調査の検討フローについて、Bから「基本的に事前調査は実施しない」という動きも出てくる(Bからの矢印の追加)。「事前調査の実施」と「工事計画の修正、工事の施工」双方向に関連する(両矢印の追加)。

【平成 24 年度 工事箇所モニタリング調査計画について】

○ 桃園地区低水護岸工事について

- ・ 桃園地区低水護岸工事における調査実施予定について、ワンド環境の把握のために、魚類調査に加え貝類を追加する。
- ・ 簡易魚道の設置に関連し、アユの遡上が増えてきているので、遡上したアユが何処で生活しているか、産卵しているか等、アユの生活史を確認することが大切である。

【平成 23 年度 工事事前調査結果報告について】

【平成 22 年度 工事事後調査結果報告について】

○ 全体について

- ・ 単年度でなく数年にわたる計画の中で今年がどのような位置にあるのかを整理して実現することが望ましい。
- ・ 水の中の魚類は何か等と特定せず、どういものが普通の生態系の中で生育していくことが重要であるとの

認識の中で、オイカワについて他の河川との違いを調べていくことも大切である。

- ・ 陸上植物の外来種率は高くなっているが、猪名川では水の中の外来種率が低い状況であり猪名川の特徴である。土砂管理がさらに上手に進めば、在来種が増えてくることが期待できる。
- ・ 大きな濁水があると在来種が増える傾向にあり、濁水に適合する在来種の発芽率が高くなっているのではないかと予想される。

【第 10 回猪名川総合土砂管理委員会報告】

- ・ 猪名川の大きな特性は、外来種率が陸上植物では非常に高いが、水中では低いことである。土砂全体の管理がうまくいくと、もう少し外来種率が低くなり、在来種が増えてくる状態が期待できる。
- ・ 濁水により外来種率が低下し、在来種率が高くなる事例があり、そういったことをさらに調査していけばよいと思う。
- ・ 河原に粘土質の物が堆積していない状態をつくることが必要で、今回試験施工をされた所で比高を下げるのもいいが、新たな土砂が流れてくることにより含水率の低い河原ができ、日照りに対して河原でのみ生き残れる環境が期待できる。そのためには早く土砂を投入すべきである。

以 上